



# 日高山脈博物館だより

## HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

日高山脈博物館は「ジオ・ミュージアム」  
道内唯一の地質と岩石の登録博物館！

通算 第72号

2022. 2.

不定期  
学芸員  
コラム

## 日高のジオサイト紹介① さんごの滝

北海道や日高山脈の形成を経る、特徴的な地質の日高に数あるジオサイトの1つを紹介します。

サンゴの滝は昭和 15 (1940) 年に造成されました。

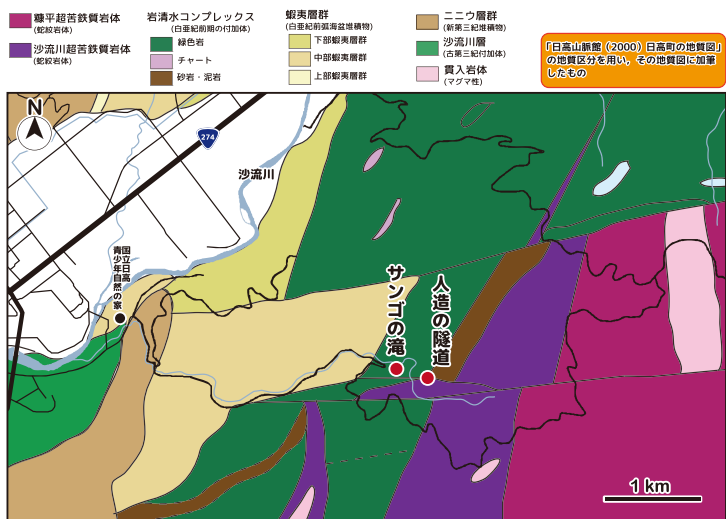
当時、三号の沢(旧ユーケシオマナイ川)上流にあったクロム鉱山(八田右左府鉱山)から、クロム鉱石運搬用の道を造るため、岩盤を穿ち上流の水を迂回させたもので、本流の三号の沢に落ちる滝ではなく、本流の左岸岩壁から合流する形になっています。完成した当時は、「八田鉱山」、工事技術者の「曾木氏」、鉱山事務所長の「出垣氏」の頭文字を取り「八曾出(やそで)の滝」と呼ばれていました。昭和 45 (1970) 年に滝のそばで、六射サンゴの化石(当館 2 階に展示しています)が発見されたことで「サンゴの滝」と呼ばれるようになり、現在は、国土地理院発行の地形図にその名が記載されています。なお、三号の沢も、同様の理由でさんごの沢と呼ばれるようですが、国土地理院の地形図にはその記載はありません。

右下の地質図によると、三号の沢は、2,000 万年ほど前に形成された堆積岩(二ニウ層)、1 億年ほど前に形成された堆積岩(蝦夷層群、主に中部蝦夷層群)、サンゴの滝の岩壁である岩清水コンプレックスの緑色岩や砂岩泥岩、クロム鉱石を地下深くから持ち上げてきた蛇紋岩などが分布している地質になっています。三号の沢に沿ってのびる林道を 1 時間程度歩くとサンゴの滝に到着しますが、その道中では、二ニウ層と蝦夷層群の不整合面をはじめ、さまざまな地層や地質現象(例えば、二ニウ層や蝦夷層群ができるたびに、どのような現象があったのかなど)も観察することができます。三号の沢自体、ジオサイトをたくさん有する、たいへん興味深い沢なのです。

さて、日高のジオサイトの紹介は、紙面や発行間隔などの都合上、不定期なものになりますが、日高のジオサイトはたくさんありますので、少しずつでも紹介していきたいと思っております。日高のジオサイトの詳細などについては、当館の学芸員にお問い合わせください。



サンゴの滝。平成 10 (1998) 年ごろの姿。落差は約 26m。その姿は「奔湍石を噛み飛沫霧散して万解の涼味を覚える」(日高村五拾年史)。



「日高山脈(2000)日高の地質図」の地質区分を用い、その地質図に追加したもので

### 「ジオサイト」とは…?

特徴的な地球科学的価値のある地質(地層、岩石、鉱物、化石など)や地形が見られる場所や、それを前提とする、地質や地形が関係している生物の生態や人とのかかわり(文化など)を示す場所のことです。

日高山脈博物館のホームページ上でも掲載しています。こちらでは、写真などがカラーとなっています。ぜひ活用下さい。⇒ ホームページ (<http://www.town.hidaka.hokkaido.jp/hmc/>) の新着情報からどうぞ。